

# 第6学年 社会科学習指導案

令和 6年 7月 2日

第6学年 2組 31名

豊見城市立上田小学校 赤嶺 英幸

1 大単元名 「日本の歴史」

2 小単元名 「国づくりへのあゆみ」(教育出版6年)

3 単元について

## (1) 教材観

本単元は、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の三つの現象を手掛かりに世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解することをねらいとしている。「縄文時代」と「弥生時代」は米づくりを中心に大きく違っており、「衣食住の違い」「人々の行動の違い」「古墳の大きさの違い」など比較して考える力の育成に適した単元である。さらに、「自由進度学習」の授業展開を取り入れ、児童が未来の創り手として、歴史への興味や関心を高め、学び方を自ら調整しながら主体的に歴史学習に臨めるようにする。

自由進度学習では、縄文と弥生と古墳それぞれの時代を、児童が自身で学習計画を立てながら追究活動を行い、各時代の生活の様子について調べ・まとめ・共有することで、大昔の生活の変化について意欲的に学ぶことができると考える。

## (2) 児童観

本学級の児童は「協働的な学び」を重視した学習展開に慣れ親しんでいるため、友達と協力して学習に取り組むことが好きな児童が70%と多く、社会科の学習に対して意欲的な児童が多い。本単元では、人々の暮らしの変化を通して狩猟・採集文化から稲作文化への移行や、古墳の広がりや大和朝廷(大和政権)の出現など「むらからくにへ」と社会の変化について学ぶことになるが、初めて日本の歴史を学ぶ児童も多く、身近な生活との具体的な関わりが見えないものや抽象的な内容であることと、課題解決のために必要な資料を集めることができる児童が40%に満たないことから、苦手意識や関心意欲の低下がでてくると予想される。そのため、自由進度で自分の興味関心の高い内容から追究活動を行い、協働的な学びを通してお互いに分かったことを共有し合いながら、学びを深めていきたい。また「多様性(いろいろある)、相互性(関わり合っている)、有限性(限りがある)、公平性(一人一人を大切に)、連携性(力を合わせて)、責任性(責任をもって)」など、これからの未来を考えるという連続性や関連を意識させる「発問」を取り入れた授業展開を心がけることで、ESDの能力・態度も育んでいきたい。

## (3) 指導観

歴史指導の導入では、既習事項を生かして現在の選挙制度を約100年前の選挙の様子と比べ、社会の在り方や暮らしに関わる制度が変わってきていることが歴史を学ぶことで見えてくる重要な学習であることを児童に意識させたい。また、縄文時代・弥生時代・古墳時代の想像図の読み取り・

比較を通して「なぜ違うのか」という理由を意識させながら考えさせていきたい。さらに、生産手段が変化していることや、人々の暮らし集団形成の変化、古墳の広がり、大和朝廷が全国の豪族を従えたことを捉えさせたい。

本単元では、学ぶ意欲を促すために授業を自由進度学習で行い、自分のペースで学習を進められるようにする。自由進度学習を行う5時間の中で3つのコースに分かれ、自由に学習計画を立てながら縄文時代や弥生時代、古墳時代について学習していくことを確認する。その際に、必ず5時間で全ての時代の学びを完成させ、表現・発信ができる状態にすることを約束し、スペシャル問題を設定することで学びをさらに発展させていきたい。また、協働的な学びとして「縄文・弥生・古墳どちらの時代に住みたい？住みたくない？」を紹介するパフォーマンス課題を設定し、それぞれの時代の特色、暮らし、社会の様子を自分が選んだ時代を紹介するワークシートやポスター、ミニ新聞などの成果物を活用しながら、お互いに批判的・多面的・総合的な見方・考え方で共有したりすることを通して、ESDで育みたい能力・態度を高めていきたい。

#### 4 単元の指導目標

##### (1) 単元の目標

知識及び技能	大昔の日本でむらからくにへと変化したことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
思考力・判断力・表現力等	縄文時代、弥生時代、古墳時代の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
学びに向かう力・人間性等	大昔の日本の暮らしについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。</li> <li>調べたことを年表や図表などにまとめ、むらからくにへと人々の生活が変化したことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の様子、人々の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、狩猟・採集や農耕の生活、古墳の様子、大和朝廷による統一の様子について考え、表現している。</li> <li>狩猟・採集や農耕の生活の様子、古墳の広がり、国家の統一の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>狩猟・採集や農耕の生活の変化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> </ul>

5 単元の指導計画・評価計画（全9時間）

	方法	○主な学習活動	・指導の留意点	評価規準【観点】(方法)
学習問題をつかむ(2時間)	一斉指導	○「狩りや漁をしていたころの様子」や「米づくりが広まったころの様子」の想像図を読み取ったり、比較したりして、気付いたことや疑問点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大昔の人々が、狩りや漁、採集を行って暮らしていたことや、そうした暮らしの様子が変化していったことを押さえる。</li> <li>・疑問点を見つけることを、児童に意識づけてから資料を見る。</li> <li>・オクリンクを活用して、児童の意見を可視化する。</li> </ul>	【思判表】想像図を読み取ったり、比べたりする中で、その様子の違いから疑問を持ち、人々の暮らしの変化やその要因を考え、表現している。(発表、ノート、タブレット)
		○大昔の人々の暮らしの変化について学習問題を立て、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK for schoolを用いて「縄文時代」や「弥生時代」の歴史的展開や暮らしの変化についておおまかに押さえる。</li> <li>・オクリンクを活用して、児童の意見を可視化する。</li> </ul>	【思判表】人々の暮らしの変化について問いを見だし、学習問題として表現している。(発表、学習計画表、タブレット)
学習課題：大昔の人々の暮らしは、どのように変わっていったのだろう。				
調べる(5時間)	自由進度学習	○「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」の特色、出来事や人物について、自分で学習計画を立て調整しながら調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由進度学習として縄文時代、弥生時代、古墳時代について、各時代のワークシートをもとに学習していくことを確認する。また、単元のゴールとしてのパフォーマンス課題を提示する。その際に、必ず5時間で自分の学びを完成させ、表現・発信ができる状態にすることを約束する。</li> </ul>	【態】学習問題について学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発表、学習計画表、行動観察)
		縄文時代コースの調べる事例：狩りや漁・採集、三内丸山遺跡、竪穴住居、縄文土器、土偶、矢じり、人々の食べ物		
		弥生時代コースの調べる事例：米づくり、青銅器、鉄器、弥生土器、農耕具(石包丁、田げた)、人々の食べ物、吉野ヶ里遺跡、吉野ヶ里遺跡からの出土品、むら、指導者(首長)、豪族、くに、邪馬台国、卑弥呼		
		古墳時代コースの調べる事例：古墳、前方後円墳、古墳づくり、渡来人、大和朝廷、大王(おおきみ)、古事記、日本書紀		
		スペシャル問題に挑戦しよう		

考え・まとめる (2時間)	協働的な学び	パフォーマンス課題：どちらの時代に住みたいか・住みたくないか考えを表現しよう	
		<p>○「どちらの時代に住みたいか?」について、<u>選んだ理由</u>を考え、意見交流で学びを深める。</p> <p>(検証授業本時)</p> <p>○「どちらの時代に住みたくないか?」について、<u>住みたくない時代の課題</u>を見つけ、意見交流で学びを深める。</p> <p>○それぞれの時代の課題を解決する方法を考える。</p>	<p>・ESDの視点(公平性、連携性、責任性)を働かせながら、選んだ理由をSDGsの目標と関連付けながら書かせ、意見交流させる。</p> <p>・前時で選んだ時代を「正しい」「正しくない」で批判し合うことに執着させないように、担任はファシリテーターとして、ESDの視点(公平性、連携性、責任性)で意見交流ができるように配慮する。</p> <p>・昔と今を比べて、よくなっている点や課題点などを考え、これからの生活に生かせるようにする。</p>

## 6 本時の指導 (8/9時間)

### (1) 本時の目標

ESDの視点(公平性、連携性、責任性)を働かせながら、狩猟・採集、米づくりや古墳づくりの広まりと人々の暮らしや社会の変化を関連付けて考え、表現することができる。

### (2) 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

【公平性】: 大昔の人たちの生活を知ること、自然からの恩恵を享受することや基本的な権利を守ることの大切さを理解し、未来へ繋いでいこうと考えること

【連携性】: 縄文・弥生・古墳時代の暮らしや社会の様子の変化について、知っていることを共有し学びを深めること。

【責任性】: 過去の歴史を学ぶことで、平和でより良い社会を未来へつなげていくために、自分にかができるのかに気づき行動すること。

### (3) 本学習で育てたいESDの資質・能力

【批判的に考える力】: 縄文・弥生・古墳時代それぞれの良さや課題について、自分の考えを見つめ直す。

【多面的・総合的に考える力】: 協働的な学びを通して、お互いの考えを比較しながら考える。

【コミュニケーションを行う力】: 既習内容を生かしながら「どの時代に住みたいか」について、自分の考えを相手に伝える。

### (4) 本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正
- ・お互いの人権、文化を尊重すること

### (5) 達成が期待されるSDGs

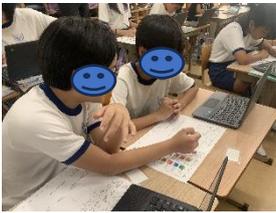
目標 10: 人や国の不平等をなくそう

目標 11: 住み続けられるまちづくり

目標 16: 平和と公正をすべての人に



(6) 本時の展開

	○学習活動 ・児童の反応例	◇指導の留意点	評価規準【観点】(方法)
導入	○前時までの学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	◇教科書や資料集の想像図等の資料を提示する。	
	めあて：縄文時代と弥生時代と古墳時代、どちらの時代に住みたいか考えを伝えよう。		
展開	○縄文時代と弥生時代と古墳時代の生活の仕方について振り返る。 ＜縄文時代＞ ・狩りや漁、採集、縄文土器、大型竪穴住居、大型堀立柱建物、など。 ＜弥生時代＞ ・米づくり（田おこし、収穫、脱穀） 青銅器や鉄器、道具や布の製作、首長、豪族、争い、など。 ＜古墳時代＞ ・古墳づくり、渡来人、大和朝廷、大王、日本書紀、古事記、など。 ○どちらの時代で生活をしたいか、理由や根拠を付けてオクリンクに表す。	◇カフト問題（縄文～古墳時代まとめ編）に取り組みせ、各時代の生活や社会の様子をふりかえる。 ◇衣食住、社会の様子観点で時代を比較させ、選んだ理由をSDGsの17の目標と関連させながら考えさせる。 ◇机間巡視をして、理由を書くことに支援の必要な児童には、教科書の生活の仕方に特徴のある絵に着目させたり、ワークシートで学習した内容を振り返ったりさせながら書けるように言葉かけをする。 ◇選んだ時代によってオクリンクのカードの色を変えるよう伝える。 縄文時代：黄色、弥生時代：水色、古墳時代：黄緑	  【思考・判断・表現】縄文から古墳時代までの人々の生活の様子についてSDGsの17の目標と関連付けながら考え、衣食住や社会の様子観点から具体的に理由を表現している。（オクリンク、発言）
まとめ	○時代を選んだ理由や考えを共有する。（グループ→全体） ・縄文時代は争いがないから。SDGs 16番の平和と関係している。 ・弥生時代は食料が安定している。SDGs 2番の飢餓をなくそうに関係している。 ○次時の見通しを立てる。	◇どちらの時代に決め、なぜ選んだのかを理由や根拠を示しながら説明させる。 ◇自分の考えたSDGsの視点がどの領域（環境・社会・経済）にあたるのか、分類できるように支援する。 ◇次時は、選ばなかった時代の理由をSDGsと関連させて考えることを伝えておく。	

(7) パフォーマンスの評価規準（ICEルーブリック）

	I (個別の知識レベル) B 評価	C (関連付けられた知識レベル) A 評価	E (応用レベル) S 評価
評価規準	・縄文、弥生、古墳時代のワークシート全てに取り組み、それらを使って自分の考えを表現することができる。	・縄文、弥生、古墳時代のワークシート全てに取り組み、さらにスペシャル学習で自分がまとめたり作成したりしたものを使って、学習内容と関連付けながら説明や質問をすることができる。	・縄文、弥生、古墳時代のワークシート全てに取り組み、さらにスペシャル学習で自分がまとめたり作成したりしたものを使って、学習内容と関連付けながらどの時代についても説明や質問をすることができる。また、友達からの質問に対して、どの資料をみれば解決できるかなど、学び方や調べ方を伝えることができる。